

快居の会 だより

快居の会受付 TEL FAX 06-6946-6161
〒540-0036
大阪市中央区船越町 1-6-2-702 アトリエV O I D内

11号記事

- 快居の会 1級建築士事務所登録のお知らせ
- 快居への取り組み～家の中に病室はつくらない～
- 大熊由紀子先生の話聞いて

快居の会一級建築士事務所開設のお知らせ

福医建研究会の活動から 1995 年に発足した快居の会は、NPO 法人化にともない、福医建研究会の住居改善実践事業部として活動しています。NPO 法人として建築設計監理業務をしっかりとお引受けするためには、一級建築士事務所の登録が課題となっていました。平成 15 年 4 月 1 日付けで大阪府に登録することができました。

一級建築士事務所大阪府知事登録 (イ) 20133 号です。

特定非営利活動法人福祉医療建築の連携による住居改善研究会快居の会一級建築士事務所の誕生です。

*

快居の会だより第 1 号 (1995.7.1) には、「快居の会」の発足として下記の文章を掲載しています。

長寿化が進み、誰もかなりの期間、家族をあてにせず、自立して生活していかななくてはならない時代が到来しています。年をとることで何らかの障害をもつようになり、高齢の障害者が増える時代でもあります。そのため、地域社会で気軽に受けられる介護サービスの充実と、どこでも安心して過ごせる住宅や施設の保証を拡げていきたいものです。

そこで、

- ・高齢者・障害者の自立を支援し、また介護者の負担を軽減するよう住居を改善していくこと
- ・高齢者・障害者向け住居を建設していくこと、バリアフリー住宅の普及に努めること
- ・地域における介護や医療サービス関連施設を整備していくこと
- ・地域の居住地環境を高齢者・障害者をはじめ、誰にも困難のないように整備すること (福祉のまちづくり等)

が課題となります。

『全ての人々にとって安全で暮らしやすい生活空間は、高齢者・障害者等のハンディキャップをもつ人々に、安全で暮らしやすい空間であってこそ実現される』と考え、ひとりひとりの心と体の特性をふまえた生活空間の設計で役立ちたい、また、情報や技術を交流したい、と建築設計技術者の集まりである「快居の会」が発足しました。

私たちの仕事メンバーは設計作業を中心に、次のようなことをします。

- 住居改善相談アドバイス
- 住宅の計画・設計
- 施設の計画・設計
- 工事監理
- 調査研究
- 研修、講演、交流会

また、福医建研究会定款には、調査研究、啓発のための事業、住居改善に関する相談や助言および住居改善を实践する事業のほか、「医療、保健、福祉の分野やその他の非営利団体をサポートする事業」も表記しています。

*

快居の会は、住居改善を生真面目に追求してきました。発足以来のメンバーも多く、同じ姿勢で思考できるチームワークも生まれ育ち、これをいろんな設計活動の場で発揮していきたいと考えようになりました。住居改善が「ライフワーク」ではありませんが、快居の会発足から少しずつ暖め続けてきた住居以外の分野にも、積極的に取り組む条件が整ったこととなります。

建築に関するあらゆる分野からの相談や設計監理業務の依頼に応えたいと思います。NPO 法人が設立した一級建築士事務所として、住居改善で培ったノウハウを生かし、多様な建築の企画・設計監理やその他の活動にも取り組みます。みなさまのご支援をよろしくお願いいたします。

設計コンセプト

活動しようと思う空間へ

- 1.目にやさしい光空間の創造
- 2.活動し易い床の確保
 - ・冷たかない床・段差のない床・車椅子対応の床
- 3.開放的な空間創造
- 4.思い出と熟年らしいシックさを演出
- 5.将来の維持に不安を残さない
 - ・構造補強・室内の断熱性能アップ
 - ・シックハウスへの配慮
 - ・目の届かない屋根部分はメンテナンスフリー（屋根材・トコの交換）

設計者からのひとこと

いかなる提案も住い手が将来の生活に積極性がないと、より良い効果を生み出せないことを改めて痛感しました。住い手の力と創り手の力のコラボレーションです。

アプローチ門前

- ・中央部をスベリ止めタイルに貼替え。
- ・人感センサー付防犯用照明。



屋根を半メンテナンスフリーの建材に葺替え

サンルーム

- ・趣味の蘭等の植物がリビングの主となっていた。季節毎の花の移動や水遣りが辛くなり、要望のサンルームとなった。
- ・排水可能な土間、床レベルでは金属性のグレーチング。床下には冬場に備えてシャッター付換気ガラリサッシ面も断熱効果を期待して樹脂ポリカーボネートを使用。
- ・リビングは人間のために解放されました。

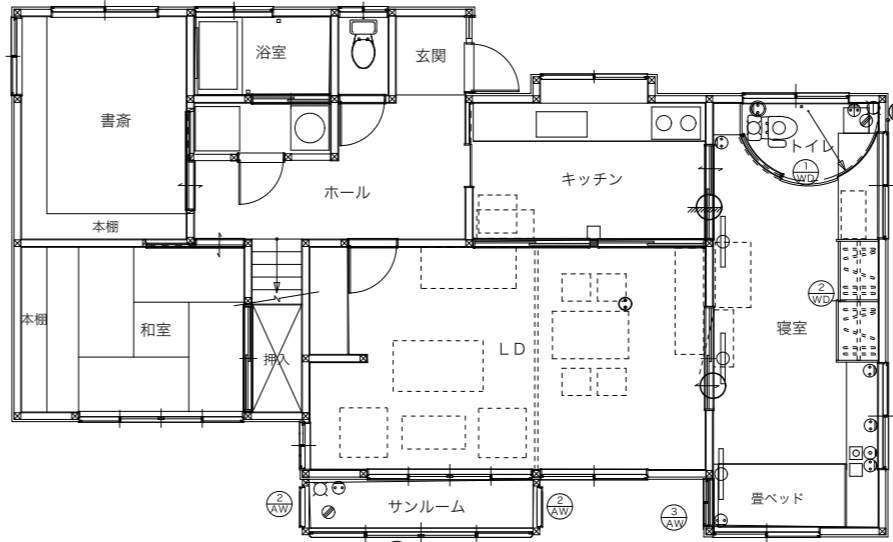


浴室

- ・洗い場に立ちあがり用の既存手スリがありましたが、位置が不適切で使用不可。
- ・動作シミュレーションを繰り返して手スリ位置を検討。3箇所取り付け。



入り口とカラン横に手すりを後付け



改修後平面図

L D

- ・暗いLDは、天井の塗り替え、照明器具の交換後に食卓上は、器具の高さ調節可能なものに交換。

寝室

1. 壁、天井はプラスターボードをベージュ色に塗装（シックハウス対応の水性塗料）。
 - ・間接照明の反射光で光りやさしい空間を演出。
 - ・外光は木製ブラインドで調光。
2. 開口部は全てペアガラス採用。
 - ・庭側は開放感を獲るために透明ガラス。
 - ・視線の調整を木製ブラインドで。
3. 床は、室内環境汚染物質や介護に関する臭いを吸着分解する加工や、抗菌・制菌加工を施し、且つ、車椅子使用にも耐えうるタイルカーペットを寝室・キッチンに採用
 - ・段差は木製三角スリ材で調節。
4. 収納は、240cmの天井高いっぱい1間の物入れにハンガーパイプを2段設置。
 - ・カウンター下に可動棚・既存のタンスをビルトインし収納率をアップ。
5. 希望の畳ベットの立ちあがり易い高さでオーダーメイド
 - ・寝室には、加齢の今後を考慮、単にトイレではなく身だしなみを整えるグルーミングコーナーを設置。アールの引き戸はインテリアアクセント。
 - ・照明は、人感センサー付。室内換気用換気扇も設置。



寝室の南西方向



トイレとグルーミングコーナー



寝室からトイレ方向

既設浴槽

浴槽内の使われていない既設手すり

キッチン

主婦の部屋

改修前平面図

リビング

クライアントからの手紙

「一階に降りて来てベッドにしろと言うのにちっともきかへん。」「物」が多すぎて僕らがいなくなつたあとの部屋がみんな納戸になってるやないか。」今年の正月、酔いのまわつた子供らが私を責めた。

昨年一月、一緒に住んでいた息子が博多に転勤した。一人住まいとなったその夏、家の中で転び右膝を痛めてしまった。遠く離れた子供たちは心配だったのだろう。しかし「まだ若い」と思っている私は、酔いも手伝ってくやくしく、泣いてしまった。その勢いで、正月明けすぐ枚方市役所の高齢社会室へバリアフリー改造のための電話をかけた。電話は次々と回され五番目に出たこられたのが「フクイケン」だった。「福井県までなぜ回るのだろう」とびっくりしたが、それが「福医建」の福田ゆりさんとの出会いであった。翌週、佐藤和子さんと二人で来て下さり、私の実情や要求をとても丁寧に聞いて下さった。後に児島三郎さんが加わって下さった。

私は、今まで頼んでいた工務店に、とっていいが、「必ず二社」以上から見積りを取るよう」と説得され、結局施工は「アステージカクタ」さんへお願いすることに決まった。工事一日目から問題が起った。改装する部屋の床を剥がすと古材が使っており、おまけに南側二本は三十七センチメートルも短かった。今まで工務店を心から信頼していた私のショックは大きかった。しかし、この時「見える所は後に回してもいい。見えない所にお金をかけましょう。」という福田さんの言葉をしっかりと納得した。

またシックハウスの起らない材料を徹底して使われたこと、優れた新建材をよく知っておられて、少し高くて長い目で見ての効果を考え使って下さったこと（例えば屋根葺替えのガルバリウム、窓のペアガラス、建材のポリカーボネート、本製ブラインド、床のタイルカーペットなど）に感心した。一番嬉しいのは今後の一人暮らしのために、部屋にトイレを備えて下さったことと、手摺りを適当な位置にとりつけて下さった事である。また手持ちの家具を大切に、少し寸法を直したりしてそのままの部屋に置いて下さったのも嬉しかった。時々意見の違うこともあった。例えば部屋の窓枠の本製部の色を紺に塗ると言われた時は飛び上がった。懇願してベージュにして頂いた。（今は紺でもよかったかなと思うこともある。またあれもこれも「捨てる」と言われ、一度は納得したものの、あとから元に戻したのもあった。しかし思い切って相当処分できて、すっきりした。

新しい部屋は、明るく落ち着いて風通しがよく、最初の日からぐっすり寝ることができた。思いがけない喜びは東側の窓に面したテラス（奥行き四十五センチ、幅二メートル半）が朝から夕方まで明るく、手紙を書いたり短歌を作ったりして机につくことの多い私には何よりのプレゼントである。深いえんじ色はベージュの部屋のアクセントになつていていい。

一時は、老人ホームかマレションへと考えた私に、かなり不便なこの場所である決心をさせたのは、夫と一緒に乳児保育所作りの運動から出発したこの香里ヶ丘の町への愛着と、御近所と仲がいいこと、花や野菜を作ることが大好きな私にとって小さい庭のあることであつた。その花たちの冬越しの場であるサンルーム（約三・三㎡）も作っていただいた。

思いがけぬ出逢いであつたが「ほんとうの豊かさ」を頂いたと思う。子供たちにも安心してもらって、元気でここで生きていきたいと思う



二〇〇三年八月十日

以上

当日参加した私の友人（65歳、一人暮らし、共済年金受給者）は、「この国では老いたくないなあ」と、言いました。

それほど、今の日本で人生の最後を迎える時の辛さがよく伝わる講演でした。

「おぼけになったら」待っているのは、檻付き個室や拘束。評判の高いお金持ち用の施設が出している、ペットのえさのような細切れどろどろの食事。誰かの世話にならないと生きていけなくなった時の、あまりにも人権を無視した現実の場面の連続に、参加者全員がドンドン引き込まれていきました。それにひきかえ、デンマークの痴呆高齢者が、きちんとした身なりで思い出の品に囲まれて、日常生活をおくっている様子。人生の最後に、誰もがそういう支え方をしてもらうために、お金を使って当然という、国民の姿勢。あまりにもこの違いは大きすぎるじゃない！誰でも「デンマークに生まれたかったなあ」と思いますよね。しかし、スウェーデンでも、働けなくなった年寄りを皆で崖から突き落としていた時代もあったとか。

□ーマは一日にしてならず。多くの人達の様々な分野での活動の積み重ねが、今の手厚い福祉制度に実った事を、思い知らされます。

この講演を聞いた一人一人が、思いを新たにしておいて、自分の持ち場で見つける人権無視の現実を変

えて行かなくては。また、介護される人、介護する人どちらの人権も大事にされなくてはなりません。家庭介護の泥沼で両方の人権が損なわれている現実もよくみかけられますよね。由紀子さんは今回の講演で、「当たり前の人権感覚を原点に、初心を忘れずに」と、我々の活動に対して激励をされたのではないのでしょうか。最近の「福医建」では、行政機関等とのタイアップ事業が増えてきていますが、様々な矛盾を抱えながら行われている行政の補完だけにならぬように、シャープな原点としての人権感覚を失わないように気を付けなくては、と身を引き締める思いでした。

今回の講演をきっかけに、より積極的に我々の活動に参加していこうと思われた方、研究会への発言や情報発信をして下さい。お待ちしております。

講師紹介（著書より抜粋）

大熊由紀子

大阪大学大学院教授

東京大学教養学科、科学史・科学哲学学科卒業。朝日新聞社会部、科学部記者を経て、朝日新聞・女性初の論説委員に。主に医療、福祉、科学、技術分野の社説を担当。2001年より現職

主な著書

「寝たきり老人」のいる国いない国

新の豊かさへの挑戦（ぶどう社）

福祉が変わる医療が変わる

日本を変えようとした70の社説+α（ぶどう社）

など

事務局からのお知らせ

下記ホームページにもアクセスして下さい。福医建研究会、快居の会の紹介をしています。

URL : <http://www7.ocn.ne.jp/~fukuiken>

福祉・医療領域と連携した私たちの仕事

- 住居改善相談、アドバイス、設計、監理
- 住宅の計画、設計、監理
- 集合住宅、住施設、高齢者・障害者に配慮した各種建築の計画、設計、監理
- その他の建築、まちづくりに関するのアドバイス、調査、計画、設計、監理

〒540-0036

大阪市中央区船越町 1-6-2-702 アトリエVOID気付

(特活) 福祉医療建築の連携による住居改善研究会 住居改善実践事業部 快居の会

快居の会メンバー

- | | | |
|--------------------|--------------------|---------------------|
| 明石 友宏 (双葉都市設計工房) | 今井 俊夫 (今井環境建築事務所) | 上田 猛 (上田猛建築事務所) |
| 小倉 勝彦 (アトリエVOID) | 川上 昌宏 (アルスペース設計工房) | 佐藤 和子 (佐藤建築事務所) |
| 相馬智香江 (アドテック建築事務所) | 馬場 健一 (馬場健一建築研究所) | 馬場 昌子 (関西大学工学部建築学科) |
| 福田 由利 (アトリエ・ド・ワグ) | 松村 優 (創造福祉空間研究所) | 山口 敏充 (山口計画事務所) |